

平成 29 年度 相模原青陵高等学校 不祥事ゼロプログラム（最終検証）

神奈川県立相模原青陵高等学校は、不祥事の発生をゼロにすることを目的として定めた不祥事ゼロプログラムについて、次の様に最終検証をしました。

（評価：目標を達成することが、4 できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった）

1 実施責任者

相模原青陵高等学校不祥事ゼロプログラムの実施責任者は校長とし、副校長・教頭がこれを補佐する。

2 目標及び行動計画

課題 法令遵守意識の向上（公務外非行の防止、職員行動指針の周知徹底）

取組 教育に関わる公務員としてのより高い意識の育成を図る。

目標 公務外非行ゼロを実践する。

行動 根拠となる法規等を確認するとともに、事件事例等を取り上げた研修会を実施し意識を向上させる。

評価 4（できた）

検証 研修会の実施・資料配付等により、職員の意識を向上させ公務外非行ゼロを実践できた。

課題 セクハラ・パワハラ・わいせつ行為の防止

取組 情報収集に努めると共に、人権感覚を磨き規範意識の向上を図る。

目標 セクハラ・パワハラ・わいせつ行為ゼロを実践する。

行動 相談や報告がしやすい職場環境を整え、風通しのよい職場づくりをする。セルフチェックや人権感覚を磨くための研修会を実施する。

評価 2（あまりできなかった）

検証 事故防止会議等を通して意識の向上を図り、セルフチェックを実施することによって啓発活動に努めたが、不適切な言動が確認された。今後さらに啓発活動を強化していきたい。

課題 体罰及び不適切な指導の防止

取組 人権感覚を磨き適切な指導体制の確立と職員個々の指導力の育成を図る。

目標 人権研修を行い人権感覚の更なる育成を図る。

行動 人権研修の実施と情報の収集に努め、複数指導体制での生徒指導を図るとともに、体罰根絶チェックシートを活用した研修会を実施する。教員一人ひとりが、指導方法についての振り返りを行い、指導力を向上させるとともに、アンガーマネジメントを身に付ける。

評価 4（できた）

検証 人権研修や事故防止会議を通して、アンガーマネジメントについて学び、適切な生徒対応に役立てることができた。

課題 進路関係書類の作成及び取り扱いに係る事故防止

取組 調査書、推薦書の記載事項及び推薦基準の点検体制の周知徹底を図る。

目標 調査書、推薦書の発行ミスゼロを実践する。

行動 推薦会議を通して推薦条件の確認を行い、マニュアルに沿った点検体制の周知を図るとともに、書類発行手順の説明会を実施し周知徹底を図る。

評価 4（できた）

検証 書類発行手順について適宜改善を加え、事故ゼロにすることができた。マニュアルの履行とチェックの徹底をさらに強化したい。

課題 生徒指導要録・通知表の作成、成績処理に係る事故防止
取組 生徒指導要録・通知表作成・成績処理における点検体制の周知徹底を図る。
目標 生徒指導要録・通知表の転記ミスゼロ及び適正な成績処理を周知徹底する。
行動 各種マニュアルの整理と研修会を実施するとともに、教務手帳等の保存と廃棄について徹底を図る。
評価 4（できた）
評価 事故防止会議や職員打ち合わせにおいて、繰り返し点検体制の確認と徹底を行い、事故を防止した。また、教務手帳について今年度よりキャビネットでの一括管理となり、保管について徹底した。

課題 個人情報の管理と情報セキュリティ対策
取組 携帯電話への適正な個人情報登録についての周知徹底を図る。
目標 携帯電話に登録した個人情報管理についてのセキュリティ対策を行う。
行動 個人情報持ち出し簿の管理を徹底するとともに、管理及び使用後の廃棄確認を確実に行う。また、セキュリティ対策、個人情報の管理についての研修会を行う。
評価 2（あまりできなかった）
検証 個人情報の校外持ち出しや個人情報の登録については、届け出の徹底と一斉アンケートの複数回の実施により職員の意識をさらに高めることができたが、残念ながら他の個人情報について、校内での紛失があった。啓発活動と届け出・アンケートを徹底していきたい。

課題 交通事故・交通違反の防止
取組 交通安全活動の実施により自己の交通安全意識の向上を図る。
目標 積極的な交通安全活動に取り組むことで自らの安全運転や法令遵守の意識の向上を図る。
行動 保護者、警察、交通安全協会と連携した交通安全活動の機会を増やすとともに、啓発資料を配付し研修会等を実施する。
評価 4（できた）
検証 交通安全指導や登校指導を通して生徒に注意喚起するとともに、我が事と捉えながら安全運転や法令遵守についての意識高揚をさせることができた。また、啓発資料の配付やポスター掲示により交通事故・違反をゼロにすることができた。

課題 業務執行体制の確保
取組 情報の共有と点検体制の確認及び業務の継承を図る。
目標 業務協力体制の確立と情報の共有を図るとともに、業務の継承について整理を行う。
行動 職員間の情報共有、相互チェック体制、業務協力体制の構築を図る。また、業務マニュアルを活用する。また、サブリーダーの配置を通して、業務の整理をするとともに、組織的な見直しを行う。
評価 3（概ねできた）
検証 各年次・校務部にサブリーダーを配置し、業務整理・協力体制の構築に努めたが、業務の偏りを解消するには至らなかった。引き続き業務マニュアルを活用しながら、業務量の偏りは是正に努めたい。

課題 適正な会計処理と事故防止
取組 私費会計処理の手順を周知し点検を確実にを行う。
目標 諸規定を周知し適正な公費執行と現金管理を行う。
行動 会計事務処理の手引きを活用し、適正な会計処理を実践するとともに、会計の見える化を図る。また、担当は複数配置することとし、文書の整理と管理を徹底し、チェック体制を整える。

評価 4（できた）

検証 事故防止会議等を利用し適正な会計処理について周知した。また、会計担当者に対しては資料や工程表を提示し、会計事故ゼロにすることができた。若干数ではあるが、伝票処理の遅れがみられた。今後も遅滞・事故のない会計処理を徹底したい。

3 最終検証

全体の9課題の内、2課題に2（できなかった）1課題に3（概ねできた）との評価をした。個人情報紛失や不適切な言動について、再発防止に向けて学校を挙げて取り組むとともに今年度良好であった課題についても引き続き事故ゼロの徹底に向けて組織的に取り組んでいきたい。資料のファイリングや振り返りの徹底を行うとともに、職員の同僚性を高めることによって風通しの良い職場環境づくりを行い、事故・不祥事ゼロを徹底したい。